

マッチングアプリを使用している10代に関する調査レポート

調査概要

項目	内容
調査名	マッチングアプリを使用している10代に関する調査レポート
調査主体	THE SINGLE編集部
調査対象	マッチングアプリを使ったことのある10代男女
調査期間	2026年3月3日～3月10日
調査方法	インターネットリサーチ
調査人数	100名
対象性別	男女
対象年齢	10代
対象地域	全国

Q1. これまでに出会いがあった場所・きっかけを教えてください。（複数回答）

選択肢	回答数	割合
学校・クラス・部活	74名	74%
友人・知人の紹介	52名	52%
マッチングアプリ	48名	48%
アルバイト先	43名	43%
SNS（X・InstagramなどのDM）	38名	38%
趣味・習い事・サークル	29名	29%
その他	8名	8%

※複数回答のため合計は100%を超えます。

10代の出会いの場として最も多かったのは「学校・クラス・部活」で74%と圧倒的な支持を集めました。「アルバイト先」が43%と4番目に位置し、リアルな接点での出会いが依然として根強いことがわかります。

一方で「マッチングアプリ」も48%と約半数が経験しており、「SNS経由のDM」38%と合わせてオンラインでの出会いも10代に着実に浸透していることが読み取れます。

Q2. 現在または過去に使ったことがあるマッチングアプリをすべて教えてください。（複数回答）

選択肢	回答数	割合
タップル	61名	61%
Tinder(ティンダー)	44名	44%
Pairs(ペアーズ)	38名	38%
ハッピーメール	31名	31%
Wippy(ウィッピー)	24名	24%
D ³ (ディースリー)	18名	18%
カップリンク	13名	13%
Memotia(メモティア)	10名	10%
その他	9名	9%

※複数回答のため合計は100%を超えます。

10代の利用経験が最も多かったのは「タップル」で61%と過半数を超えました。次いで「Tinder」44%、「Pairs」38%と大手アプリが上位を占めています。「Wippy」は韓国発の新興アプリながら24%と存在感を示しており、10代への認知が広がっていることがうかがえます。

一方「Memotia」「カップリンク」は認知・利用ともにこれからの層といえます。

Q3. マッチングアプリを使う(使った)主な目的は何ですか？(単一回答)

選択肢	回答数	割合
恋人を作りたい	41名	41%
気軽な出会いや友達が欲しい	28名	28%
暇つぶし・話し相手が欲しい	17名	17%
趣味仲間を探したい	12名	12%
結婚相手を探したい	2名	2%
合計	100名	100%

10代がマッチングアプリを使う目的として最多だったのは「恋人を作りたい」で41%でした。

次いで「気軽な出会いや友達が欲しい」が28%と続き、この2項目だけで約7割を占めています。「結婚相手を探したい」は2%にとどまっており、10代においては婚活よりも恋活・友達作りといったカジュアルな目的での利用が主流であることがわかります。

Q4. マッチングアプリを選ぶ際に最も重視したことは何ですか？(単一回答)

選択肢	回答数	割合
無料・料金の安さ	34名	34%
安全性・運営の信頼性	27名	27%
同年代のユーザーが多いこと	22名	22%
使いやすさ・操作性	11名	11%
身バレしにくい設計であること	6名	6%
合計	100名	100%

アプリ選びで最も重視されたのは「無料・料金の安さ」で34%でした。学生が多い10代にとって費用面が最大の関心事であることが明確に表れています。

次いで「安全性・運営の信頼性」27%、「同年代のユーザーが多いこと」22%と続いており、安心して同世代と出会えるかどうかは選択の大きな軸になっていることがわかります。

Q5. マッチングアプリを使っていることを周囲に知られた(知られそうになった)経験はありますか？(単一回答)

選択肢	回答数	割合
ない	54名	54%

ある	31名	31%
わからない・覚えていない	15名	15%
合計	100名	100%

「ない」と答えた方が54%と過半数を占めましたが、「ある」と答えた方も31%おり、約3人に1人が身バレや身バレの危機を経験していることがわかりました。10代は学校や部活など日常的なコミュニティが密接であるため、マッチングアプリの利用が知人にばれるリスクが相対的に高い世代といえます。身バレ対策の重要性が改めて浮き彫りになった結果です。

Q6. 身バレ対策として意識したことがあるものをすべて教えてください。(複数回答)

選択肢	回答数	割合
ニックネームを本名と無関係にした	58名	58%
プロフィール写真を顔なしにした	51名	51%
SNSと連携しないようにした	46名	46%
位置情報をオフまたは非公開にした	39名	39%
シークレットモードを使った	21名	21%

特に何もしていない	18名	18%
-----------	-----	-----

※複数回答のため合計は100%を超えます。

身バレ対策として最も多く実践されていたのは「ニックネームを本名と無関係にした」で58%でした。次いで「プロフィール写真を顔なしにした」51%、「SNSと連携しないようにした」46%と続き、名前・顔・SNSの3点を軸にした対策が10代の間で広く浸透していることがわかります。

一方「特に何もしていない」も18%おり、対策意識にはばらつきが見られます。